

三中だより

令和7年度 2月号



令和8年2月2日発行
荒川区立第三中学校
(学校通信 R7 No.11)
校長 下斗米八穂

自治を誇れる学校へ

～ 2月 全校朝礼 校長講話より ～

私は、今日、2月2日が、荒川区立第三中学校の歴史に刻まれる、記念すべき日だと思っています。

なんの話か分かりますか？

それは、生徒の皆さんが検討した「新しい学校のきまり」が始まる日だからです。

皆さんも知っている通り、これまでおよそ半年間、生徒の声として寄せられた「黒いソックスの着用」についてどうすべきか、ずっと話し合ってきました。生徒の皆さんも代表の生徒を中心に、そして先生方も真剣に考えました。私は、この「みんなで考える時間」を持てたことが、何より大切だったと思っています。

もちろん、きまりは守るものです。

なぜならば、そのきまりには、きまりをつくった理由があるからです。

しかし、「きまりを守るかどうか」よりも、「なぜそのきまりが必要なのか」を考えることの方が、もっと重要です。

個人で興味や関心をもったことをみんなが何でもやってよいか、というと、そう簡単にはいきません。

誰かが悲しい思いをしたり、みんなの生活が壊れてしまったりするかもしれないからです。

ですから、みんなで大事にしなくてはいけないことを確認して、きまりが生まれます。

また、わざわざ言葉にしなくても、みんなが守れるものは、わざわざきまりとしてまとめたりはしません。

今回のソックスについての話し合いは、単に細かいルールを決める作業ではありませんでした。

「三中がどんな学校であるべきか」という未来の姿を考える時間でした。

「こんな学校にしたい」「先輩たちが築いてきた伝統を大切にしたい」……と、三中を大切にしたい気持ちを確かめ合ったのです。

そもそも、こんな学校にしよう、と生徒が次々と大きな声で主張し合う時間がありますね。そう、生徒会役員選挙の候補者の主張です。特に投票直前の立会演説会では、候補者が思い描いた具体的な未来の学校の姿が語られました。その演説を聞いて、そのとおりだと皆さんが意思表示したのが、一人一票の投票です。

演説をしたリーダーが方向性を示す役割だとしたら、その方向で行こう！と決めるのは投票した皆さんです。この場合の、演説をした人の責任と、投票をした人の責任をそれぞれ考えてみてください。

候補者の主張を聴き、決断をしたのは、投票をした皆さんです。ですから、投票をした皆さんにも、大きな責任があるのです。

今回のきまりも、こうしたよりよい学校について皆さんが考えて生まれた結晶です。

検討するなかで、何でもいいや、と適当に進めた時間なんて微塵もありません。単に、ルールは緩やかなほうがよい、なんて安易に決めたわけでもありません。

例えば、式典のときは白いソックスの方がいい、というところは卒業式の意味やあり方を一生懸命に考えた結果です。

ですから、生徒が考えたきまりがスタートする今日は、記念日なのです。

私には、この新しいきまりがキラキラと輝いて見えます。

「三中は、生徒が考えたきまりで生活している学校なんだ！」と、皆さんのことをとても誇らしく思います。

皆さんが考えたきまりを、皆さんで大切にしてください。

これは、皆さんが荒川三中を大切にすること、そのものです。

保護者の皆様へ

学校教育との連携をお願いいたします

まもなく衆議院議員総選挙が行われます。学校で生徒へ提示しているのは、学校のあり方であり、社会のあり方です。集団生活を送る学校の中で学ぶことは、いずれ社会の中で作り手としてどう行動するべきか、というテーマです。そこで、投票日が近づく今、社会の中の責任についてご家庭で話をする機会がもつことができるかもしれません。もしかしたら、この度の学校のきまりを考える機会と国政を関連付けて考えることができる生徒がいるかもしれません。

もしも、お子さんが興味や関心をもった際には、成長に合わせてお子さんと向き合っていただけますと幸いです。保護者の皆様個人のご意見は多種多様にあることと思いますので、ご家庭のお考えの範囲で結構です。学校の教育活動とご家庭・地域の連携を、どうぞよろしくをお願いいたします。



学校ホームページも
ご覧ください。